

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑪ 公開特許公報 (A)

昭55—51871

⑫ Int. Cl.³

D 06 J 1/12

識別記号

庁内整理番号

7211-4L

⑬ 公開 昭和55年(1980)4月15日

発明の数 1
審査請求 有

(全 2 頁)

⑭ 布地の折目筋形成方法

⑮ 特 願 昭53—121866

⑯ 出 願 昭53(1978)10月2日

⑰ 発 明 者 越崎豊宏

⑱ 出 願 人 大阪市南区空屋町37番地
越崎豊宏
大阪市南区笠屋町37番地
⑲ 代 理 人 弁理士 鎌田文二

明 細 書

1. 発明の名称

布地の折目筋形成方法

2. 特許請求の範囲

布地の表面に於て折目を形成すべき態上に、布地の熱プレス温度で容易に軟化溶解する低融点でしかも軟化溶解状態では大なる張力力を発揮する合成繊維糸をその全長に亘り縫い込んだ後布地の表面が内側になるように折目に沿って二つ折りし、次いで折目部を熱プレスすることを特徴とする布地の折目筋形成方法。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、例えばズボンの裾折目筋、スカートの腰紐等布地の折目筋の新規な形成方法に係り、その目的とするところは折目筋が長期に亘り消失しないと共にその形成が極めて容易な方法を提供しようとするものである。

以下本発明の典型例を図面に基いて説明すれば、第1図に於て1は布織物又は紡織物その他の布地、2はその折目を形成すべき3上に施したミシン縫

目である。

ミシン縫目2はその上糸aを通常の綿糸や、ポリエステル繊維、ナイロン、ビロン等の合成繊維のようになアロン等による熱プレス温度150℃程度では熱の影響を受けない糸とし、下糸bは例えば塩化ビニルやポリエチレンのようにな100～150℃程度の温度で軟化溶解してしまうような低融点でしかも軟化溶解状態で大なる張力力を発揮する合成繊維糸として、下糸b即ち低融点の糸は張り具合を著しく緩め、逆に上糸aは布地に入り込まない程に緊張させた状態とする。

この状態で下糸b即ち低融点の糸を内側にして折目であるミシン縫目2部分で布地を二つ折りして折目部をアロン等で熱プレスするのである。

然るときは下糸b即ち低融点の糸が軟化溶解して折目部の両内面同士を接合してしまえば長期に亘り消失することのない突強な折目筋となるのである。

尚折目筋の取付に供する上糸aは布地に入り込んでいないと共にこの上糸にかがっていても下糸

bは溶解してしまつて糸の形態を有しないので、割ぐように引くことによって容易に除去することができる。

又折目筋の内側、低融点でしかも軟化溶解状態で大なる張力を発揮する糸の縫い込みは、必ずしもミシン縫目とする万全のみならず刺繍或は手縫いにより形成することもできる。

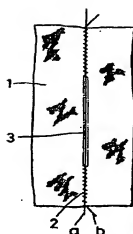
更に又布地が厚地の場合は低融点糸を縫糸、布地が厚地の場合は太糸とする等、布地の生地質、風合や折目形成の目的に応じてその太さを適宜選択するものとする。

4. 図面の簡単な説明

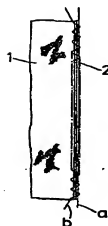
図面は本発明の実施例を示すもので、第1図は折目筋形成工程の布地の一部分の展開正面図、第2図は同上の折目筋で3つ折りした状態の一部切欠正面図、第3図は折目筋完成布地の一部分の横断面図である。

1…布地、2…ミシン縫目、3…折目形成線、
a…普通糸よりなる糸、b…低融点糸、4…折目筋

第1図



第2図



第3図



(3)